

日本経営工学会中部支部便り

平成 19 年度号

発行日) 2007 年 12 月 15 日刊

発行) 〒456 - 0058 名古屋市熱田区六番町二丁目 2 番 1 号 (株)名古屋化学工業所 O A 事業部内
日本経営工学会中部支部 電話 052 - 652-5631 fax.052-652-5632
中部支部ホームページ ; <http://www.nkk-net.jp/jima-chubu/>

支部だよりの発行について

日本経営工学会中部支部で開催する、企業見学会、講演会、研究発表会等、の活動報告ならびに今後の支部行事のお知らせを目的に、当支部便りを発行いたしました。なお郵送後、支部ホームページ、にも同文掲載をいたします。

平成 19 年度 今後の行事予定・申込み要領

○産学連携研究・講演会 2008 年 1 月 22 日 (火) 17 時より名工大にて

「欧州・フランスの自動車産業事情 (名古屋工業大学 竹野忠弘)」、
「南米の自動車産業事情 (トヨタ自動車 森康満)」、

以上、2 題の報告・講演を行い、談論いたしたくと存じます。

引き続き 18 時 30 分より、平成 20 年 支部懇談会・新年会を開催いたします。

会場は、講演会ならびに懇談会・新年会とも、名古屋工業大学校友会館 (正門入って右手奥) 1 階ホール会議室にて開催いたします。校友会館は、名古屋工業大学前身、名古屋高等工業専門学校以来の建物を創立 100 周年事業の一環として改修した古風な建物です。

参加申し込みは 2008 年 1 月 16 日 (水) まで 日本経営工学会中部支部事務局 電子メール : nkkoa@nagoyakagaku.co.jp または fax.052-652-5632 まで、①御所属、②正会員・賛与会社もしくは会員外、③参加人数、④連絡先電話番号を、明記しお申し込みください。

参加・懇親会費は正会員、賛与会社は無料、会員外は 2,500 円、同外・学生 1,500 円。

○平成 19 年度 JIMA 中部支部研究発表会・特別講演会

2008 年 2 月 29 日 (金) 午前 10 時から午後 5 時

(1) 研究発表会 (会員の一般研究発表、大学院生発表、卒論発表)

下記の要領で、支部研究発表会ならびに特別講演会を開催いたします。奮ってのご参加をお願いいたします。* 卒論発表も一般研究と区別せず同じ資格で扱います。

場所 : 名古屋工業大学 (名古屋市昭和区御器所町) 2 号館 2 階 W、Y の 2 教室 : JR、地下鉄鶴舞線・鶴舞駅下車約 8 分。発表申込み締め切り : 平成 20 年 1 月 31 日 (木)

申込先・連絡先 : 発表ご希望の方は、題目ならびに著者 (発表者には*をつける) をご連絡ください。E-mail で中出康一 (名古屋工大) まで (nakade@nitech.ac.jp)。

前刷原稿締め切り : 平成 20 年 2 月 15 日 (金) (詳細は別途ご連絡)。参加費 : 全員無料)

(2) 研究発表会支部特別講演会 支部研究発表会の当日(2008年2月29日(金))、研究発表会終了後、特別講演会を開催いたします。講演題目等の詳細は未定です。

(3) 懇親会 研究発表会終了後、2号館11階ラウンジで簡単な懇親会を開催します。研究発表会参加の学生は無料です。

○企業見学会

2008年3月18日(火) 14時～16時

「顧客満足につながる社内活性化の取り組み」(日本モザイクタイル 社長 伊奈憲正)

訪問先：日本モザイクタイル(株) 常滑市椎田口51

社内コミュニケーションをとり、会社の活性化を図った結果、生産性が1.7倍になった。グッドデザイン賞、多品種への対応、グローバル化、環境経営などに力を入れている。

集合場所：常滑駅からワンボックス希望の方は、13:30に駅前改札付近に集合、その他は車かタクシーで10分。申込方法：飯島(正)まで ijjima@dpc.agu.ac.jp 0561-73-1111ex.3736 または事務局 052-652-5631(名古屋化学)まで。定員は約20名です。

平成19年度の既開催行事の実施報告

○平成19年度日本経営工学会中部支部総会 平成19年5月8日(火)

平成19年5月8日(火)17:30より、名古屋工業大学 講堂2階会議室にて、以下の次第で総会、特別講演会ならびに懇親会を開催した。1)支部幹事会16:30より、2)支部総会17:30～18:00:平成18年度事業および決算報告、平成19年度事業、予算および支部役員(案)審議、3)特別講演会、4)懇親会、2号館11階ラウンジ。

○総会講演会 講師 倉田 勝正氏(NEC特許技術情報センター)

「コミュニケーション・プログラムの解決に向けて—文書媒体と対話技術の再生—」

参加者全員に、まずはスピーチしてもらおう。インディアン・トークの話からワークショップ方式の運営にヒントを得ました。参加者は意見をいいたがらないのではない。語り合う環境作りから。聞いてくれるから、よく伝える工夫が生まれる。語り合いから文章作法まで。電子メール・デジタル時代の文書コミュニケーションについて考えました。

○企業見学会 「(株)デンソー・高棚製作所」 平成19年8月2日(木)

平成19年8月2日(木)午後1時45分より、21名の参加を得て、調達から生産、納入先までジャスト・イン・タイム追求を進める(株)デンソー高棚製作所のボデー機器製造部を見学。同工場の主要製品は、自動車のコンビネーションメータ。樹脂成形、文字盤印刷、電子部品の実装、組付け工程からなり、流動品番点数は1500点を超える。生産システムは、得意先からの受注をかんばんポストで平準化し、20分単位で工場内に細かくタクトを伝える後工程引取り、後補充生産を徹底している。異常に対するアクションが素早く行われる、自律神経が通った工場づくりを行っている。リーン生産に愚直に徹底して取り組んでいる工場を見学し、トヨタ生産方式の強みを再認識し、まさに「パワーを頂いた」工場見学であった。